

2024年7月31日(水)14:30~16:00

成田国際空港 B 滑走路延伸及び C 滑走路増設事業 事業評価監視委員会(第2回)

議事概要

委員長:政策研究大学院大学 家田 仁 特別教授

委員:慶應義塾大学 商学部 加藤 一誠 教授

東京大学大学院工学系研究科 佐久間 哲哉 教授

東京工業大学 環境・社会理工学院 真田 純子 教授

千葉大学大学院 園芸学研究院 竹内 智子 准教授

事務局:成田国際空港株式会社(以下、NAA)

1. 感度分析について

- 委員長:感度分析の幅について、需要は+30%、-10%の幅で設定し、費用は+10%とした根拠は何か。
 - NAA:新規事業採択時と再評価時において、最大 20%程度下振れしているところであり、またビジネス需要の減として 5%程度の下振れということが考えられる。そのため、最大 30%程度の需要予測のブレがあると考え需要については+30%の幅とした。また、マイナス側については、委員よりご指摘のあった環境意識の向上に伴う行動変化をリスクケースとして考え、-10%の幅を設定した。
 - NAA:費用については、過去の工事实績を踏まえ+10%と設定した。
- 委員:費用の感度分析幅の 10%は会社として自信があるという理解でよいか。
 - NAA:新規事業採択時は現場に入れない状況であったが、現在は本格的な工事着手に向けて設計が進んできた状態での計上としている。ここからの変動要因については、現場着手後、設計想定と現地状況との相違により一定のリスクがあることを想定している。そのため、過去の空港工事の実績を考慮して増額幅を検討した結果、10%の幅を設定すれば、今後の増額を見込めるだろうと判断したところである。

2. 環境への取り組みについて

- 委員:養蜂のトライアルは興味深い。ヨーロッパでは養蜂は環境保全のシンボル。環境対策は、地域の補償としての意味合いだけではなく、空港の価値向上につなげていくことが大事である。それは結果として需要を増やすことにも寄与するのではないか。
- 委員:商品の高付加価値化・ブランド力向上について、珍しさ・美味しさのみならず、地域の環境へ配慮していること、個人で小規模に生産していることなどが、世界的に重視されるようになりつつある。この風潮を踏まえた対応が必要ではないか。

- NAA:養蜂は初めての取り組みであり、2年連続、同じ場所・同じ花での採取が困難であるなど自然相手の難しさはあるが、地元の事業者と協力して空港内で取り組むことが、成田空港としての価値向上につながるものと認識している。これをPRできるよう進めていきたい。また、地域産品の活用については、成田空港のブランド・価値とは何かを意識して取り組みを進めていきたい。
 - 委員:空港を拠点とした観光事業は、単に訪れるだけではなく、オーバーツーリズム対応、持続可能な観光地としての視点を考慮してほしい。
 - NAA:現時点では新たな観光開発が目下の課題であるが、地域の中にはファームステイ等の取り組みが模索されており、そうした取り組みを勉強しながら持続可能な観光地づくりを進めたい。
 - 委員長:今回答いただいたような内容を資料に書き込むこと。新しい価値を作っていくということを資料に謳うべきである。資料内の文言についても推敲を行うこと。
 - 委員:自然共生サイトにグリーンポート エコ・アグリパークが認定されているのは大変素晴らしい。今後もカーボンニュートラルや生物多様性に寄与していることを、国際的にもアピールしていければいいのではないか。
 - 委員:調整池が流域治水プロジェクトに含まれているのは、治水にとって作らない以上に貯留浸透がより大きな容量となる、プラスになるという位置づけか。
 - NAA:治水プロジェクトにおいては、調整池は氾濫を防ぐための対策として位置づけられている。空港は一番上流側に位置するため、空港で流出量を絞って高谷川へ流すことで一時に流れる水量を調整する機能を持つ。超過降雨の50年確率で設計しているが、それ以上の雨が降った場合でも、空港の芝地を活用することで、下流側に影響が出ないように滞水させることとしている。
 - 委員:超過降雨が降った場合、可能な限り空港内に貯留できることなど、今後の整備で公共事業の見本となるように取り組み、積極的にPRしていただきたい。
- ### 3. 定性的な評価について
- 委員:貨物は成長が著しい。「当面羽田空港の国際貨物取扱量の増加は見込めない中で、成田空港にはアジアの成長の取り込みが期待されている。」ということを書いてはどうか。
 - NAA:第三国経由の貨物をとっていくことは重要であるため、中身を精査して修文を行う。

4. 健康影響評価について

- 委員:健康影響調査について、滑走路供用後も調査を実施する旨について言及する等、より踏み込んだ表現とできないか。
 - NAA:縦断調査の重要性については成田国際空港航空機騒音健康影響調査委員会の中で今まさにご議論いただいております、地域の方々のご意見、また委員の先生方のご意見も踏まえながらしっかりと対応していきたいが、本資料での記述は現状の通りとさせていただきたい。

5. 対応方針について

- 委員長:B/C の値を記載する必要はない。事業費を精査した結果、事業費は増加したが、事業費は精査されたこと、今後に向けた前向きな取り組みが進んでいることを記載すべきである。貨物についても、予測が困難なため定量的便益に入れてないが、相応の効果が期待されることも記載すべき。文言の修正はあるものの、事業は継続するという結論で良いと考える。
- 委員:積極的な環境対策や地域振興については、事業の必要性の枠にて触れてほしい。
- 委員:今回は再評価なので、これまでの環境変化や地域との共生がより大事になったというストーリー性をもって記載するとよい。
- 委員:生物多様性についても触れて記載すると良い。
- 委員:日本における空港の価値というものが最初に記載されるべき。
- 委員長:各委員、継続については異議がないということを確認した。資料の修正については委員長と事務局に一任いただくものとする。